

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、中止となりましたが、今年度はエリアごとのグループに分かれて実施する等、各地区工夫しながら、夜間の公園やコンビニエンスストア等のパトロールを実施しました。



救命救急研修会 ～コロナ下で注意すべき点～

青葉区の青少年指導員は定期的に研修会を行っています。子どもたちに関わるイベントの開催、自治会・町内会のお手伝い等、多くの人と関わる事が多いので、救命救急の講習は定番となっています。

コロナ下における注意事項を簡単にご紹介します。基本的に傷病者に感染の疑いがあるものとして行動して下さい。

- 心肺蘇生時の胸骨圧迫はエアロゾルを発生させる可能性があるため注意して対応する。
- 成人の心停止に対しては、人工呼吸を行わずに胸骨圧迫AEDを実施する。
- 子どもの心停止に対しては、講習を受け人工呼吸の技術を身につけていて、人工呼吸を行う意思がある場合には、人工呼吸も実施する。

※子どもの心停止は、窒息や溺水など呼吸障害を原因とすることが多く、人工呼吸の必要性が比較的高い。詳しくは消防庁ホームページを見るか、講習を受けてご確認ください。



総務省消防庁HP

表紙のクイズの答

「ボッチャ」の発祥はヨーロッパというだけで、発祥国ははっきりとしないそうです。ただ、「ボッチャ」はイタリア語だそうです。「モルック」はフィンランド発祥のスポーツだそうです。



広報部員紹介

加藤 誠 / 鈴木 秀幸 / 松本 勝美 / 島津 直也 / 横山 真也 / 金平 昌幸 / 松本 洋一
岡田 静乃 / 扇原 剛 / 磯部 明宏 / 花野 年秀 / 古石 吉秀 / 石村 知子



横浜市青少年指導員
シンボルマーク

青葉区初!! コロナ下での地区イベントを開催!!

ボッチャ・モルック体験会 令和3年6月5日(土)

中里北部地区

6月5日、中里北部地区の青少年指導員とスポーツ推進委員が共催で「ボッチャ」と「モルック」の体験会を開催するという事で鴨志田第一小学校に取材に行ってきました。この一年余りコロナ下の中ですべての地区で催しが中止になってきました。子どもたちも楽しみにしていた行事が無くなって寂しい思いをしてきたのではないのでしょうか。



今回は、学校やPTAの協力を得て、事前の準備と当日も朝早くから消毒や検温の対応、競技中も都度、用具をアルコール消毒するなどの対策をしての開催でした。



ボッチャ

ボッチャは、的玉の近くに交互に玉を投げて一番近いチームの得点になるというカーリングに似たゲームでパラリンピックの種目のひとつです。

モルック

モルックは、1から12までの数字が書いてある木の棒(スキttl)にモルック(これも木の棒)を投げて倒し、倒れた本数または1本だけの時は書かれた数字を得点として数え、合計が50点になるように倒していくゲームです。



どちらのゲームも年齢関係なく対等にできるのが良いのですが勝負となると戦略もあるようで奥が深そうです。今回は事前に募集した小学生とその保護者約20組の参加という限定的なものでしたが、こういう状況下での開催は大変だったと思います。それでも子どもたちの笑顔と「もっとやりたい」「またやりたい」という声が聞けて良かったと思います。



青指あおば
第46号クイズ

中里北部地区が行った、東京パラリンピックの種目でもあった「ボッチャ」というスポーツ、発祥の国はどこでしょうか?また、「モルック」という競技の発祥の国はどこでしょうか?

区研修会をZOOM併用で開催!

令和3年7月10日(土)
14:00~
青葉区役所4F 会議室

コロナ下の中ですが、十分な感染症対策を講じたうえで、昨年度実施することができなかった区研修会を開催しました。

1 青少年指導員とは

青葉区青少年指導員連絡協議会の越田会長から、青少年指導員の役割と例年の活動について、お話がありました。青少年指導員は青少年が健全に成長することができるよう、地域においてより良い人や物をつくる推進役であり、各地域の小・中学校や自治会など関係機関・地域団体と密接な連携を取りながら活動を行う、横浜市から委嘱をされた有志のボランティアです。



2 コロナ下での港南区の 主催イベントを紹介



3月7日(日) 笹下連合町内会主催、笹下連合子ども会・青少年指導員協議会共催で区役所近くの「ふれあい公園」で、開催されました。



コロナ下のもと、開催自体が難しいイベントを、屋外で人数を絞ったうえで、消毒、接触機会のミニマム化等々…様々な工夫を重ねてやっと実現できたと、区研修会で熱く語る笹下地区 大鷹丸 会長と、ラミネート加工した大型カルタ。

コロナ対策を万全に開催

研修会実施に際しては、コロナ対策もしっかり行いました。受付では参加者の手指消毒と検温を実施、会場では3人掛けテーブルの真ん中を空けて両端に着席してもらいました。また、研修中は会場のドアを開放、窓も開けて換気が進むようにしました。



3 広報誌「seishiAOBA」が できるまで



加藤広報部会長から、広報誌ができるまでの流れについて研修会で初めて発表していただきました。広報誌は年に2回発行、紙面の内容から文字や写真のチェック、最後の発送まで広報部員がすべて行っています。

オンライン配信をはじめて導入

コロナ対策として、区役所の会場の入場者数を制限し、初めてオンラインでの配信も行いました。この経験を活かし今後もリアルとオンラインで行われることになるでしょう。



何度もリハーサルを行い、当日は19名の方がオンラインで参加され無事に配信されました。



真剣な表情で操作をする企画部員の山田さん。生配信はやっぱり緊張しますよね。

4 各地区の今までのイベントを紹介



荏田地区 紙ひこうき大会

荏田地区の独自企画「紙ひこうき大会」を2013年にスタートさせました。

①小学生1人でも徒歩で参加でき
②天気に左右されない小学校の体育館で③その場で作れる「折り紙飛行機」の飛行距離を学年毎に競います。



山内地区 屋内プラネタリウム

山内地区では移動プラネタリウムの鑑賞会を行いました。空気で膨らませたプラネタリウムを中学校の体育館に作り、普段見る事の無い星座をたくさん見る事ができ、子ども達も興味を持って参加していました。



谷本地区 親子映画会の夕べ

谷本地区の「親子映画会の夕べ」は毎年8月、最終土曜日夜の野外映画会です。校庭の国旗掲揚塔にスクリーンを張っての16mmフィルムの上映は、映画だけでなく、フィルム映写そのものが、子どもたちの関心の的です。

参加者の感想

特にコロナ下における活動事例を伺って、昨今の状況で指導員として地域にいかに関与するかを深く考える契機になりました。
(上谷本地区 垂水隆幸さん (リモート参加))

会長の挨拶と一緒に子どもや地域への活動を主にし、地域活性化を行う青少年指導員の役割を改めて認識できました。
(中里北部地区 三宅恒史さん)

笹下地区会長さんのコロナ下での開催についての講演の中で「やめることはいつでも出来る!との思いで行動していた。」という言葉が印象に残っています。
(山内地区 木下優子さん)

個人的に谷本地区の「親子映画会の夕べ」が素敵だなと思いました。広いグラウンドである程度距離を取ればコロナ下でも開催可能!?映画を観て映し出してみたいと思う子が出て来たら。。。なんて素敵な事だろうか。
(青葉台地区 青木智賀子さん)

各地区苦勞、工夫、熱量が伝わってきました。時に笑いあり、楽しく聞かせていただきました。
(山内地区 金子香さん)

私自身、まだ入会しててメンバーの方々とコミュニケーションが不十分であった事を実感し深く反省しました。今後、研修会内容を思い出しながら定例会や、開催できる行事には参加していきたいと思っております。
(山内地区 工藤政義さん)